２０１９年　１２月２１日　防災サミット　㏌御茶ノ水ソラシティ　①

活動報告書

生徒会役員会　会計　浅野寛人

1. 他校の活動について
2. 都立稔ヶ丘高校の活動

・総合学科に防災科を設置。防災技術の授業を理科の先生が担当して行っている。単位は二単位。今年度の履修登録者は１０５名。

・防災士の資格取得に向けた勉強もしている。

|  |
| --- |
| 1. 防災心理と避難三原則
2. 建物被害から身を守る
3. PTSDと心のケア
4. 救急救命法
 |

・２回による防災訓練及び被災地との合同防災キャンプ

宿泊防災訓練では校内の防災用品やAEDの場所を確認し、実際に地域の人を招いて本番を想定した訓練が行われる。また、希望者のみで行うため、より緊張感を持ったものが集まり、本格的な防災リーダー育成をしている。

1. 都立青井高校の活動

・合同防災キャンプ㏌福島県

・研修後の避難所運営訓練

|  |
| --- |
| 1. 通報・初期消火訓練
2. 応急手当の訓練（AED）
3. マンホールトイレ設置
4. 煙テント＋見学
 |

青井高校は実際に被災地に行き、現地の高校生と交流しているところが特徴的だ。さらに、避難のみならず運営訓練も行っている。

1. 東京マイ・タイムラインで風水害にどう備えるか　　　　　　　　　　　②

東京マイ・タイムラインとは災害が起こった場合にどう対処するかを家族で事前に話し合い、警戒レベルに沿って行動を決める自分たちの防災ガイドブックのようなもの。今回の防災サミットでは作成しなかったので、作成の概要については省略する。

1. 東日本大震災　大槌町役場からの学び

ここでは、講師の神谷未生さんによる大槌町の話を聞いた。大槌町は津波の影響が最も大きかった場所の一つで当時津波による町の全壊により、メディアが取材に行けず、報道されることはなかった町である。皆、津波が来るとわかっていたのに逃げなかった。なぜなら、人間特有の心理が働いたからである。防災時に働くその心理を防災心理という。

神谷さんのお話は耳を疑うようなものばかりだった。しかし、もし東京で大地震があった場合は他人事ではなくなるという危機感が芽生えだした。防災訓練は一回一回本番をイメージし、危機感を持ちながらこなすことが大切である。

防災サミットを終えて．．．

今回このサミットに参加し、自分がどれだけ防災についての意識がないのかを改めて実感した。さらに他校の防災訓練のレベルの高さには驚くばかりであった。やっていることがすごいというのもあるが、生徒一人一人が、しっかり意識を高く持って訓練に臨んでいるという訓練自体の質もすごい。ここは自分たちも見習っていくべきところだと感じた。また、未だ被災地の復興は完成しておらず、復旧中であることを頭に入れておきながら生活していくことが大切である。